

上信国境 碓井川本流 2017/04/22

メンバー：落合（CL・記録）、飯野（SL）、平川

メガネ橋駐車場 7：30 熊野神社 12：30 （旧中山道経由）メガネ橋 15：30

桜も咲き始め新緑が眩しい今日この頃、沢登りが恋しい季節になってきた。年々シーズン・インが早まっている事は否めない。久しぶりに登利平も食べたいし、西上州行ってみる？という事で返事ひとつで集まったメンバーはいつものお決まりの三人。。裏妙義じゃ終始日陰で寒いし少し違うところに行ってみるか！という事で思いついたのが近くの碓井川本流だった。

碓井川本流は以前私がメガネ橋を訪れた際、橋の下を流れる溪相が隣の墓場尻川の癒し系に似ていたこともあって、上流はどうなっているんだろうと気になっていてふと思い出し計画に至る。

この辺は言うまでもなく碓氷峠をはじめとした歴史と観光が有名であるが、入溪が碓氷峠の代表的な建造物であるメガネ橋というのがポイントだ。

中央分水嶺にあたる碓氷峠、古来より国境を超える難所道としても知られる歴史ある場所で、今回の沢登りの選定基準は単純にルート以前に歴史を尊重した地理的要因も兼ねている。

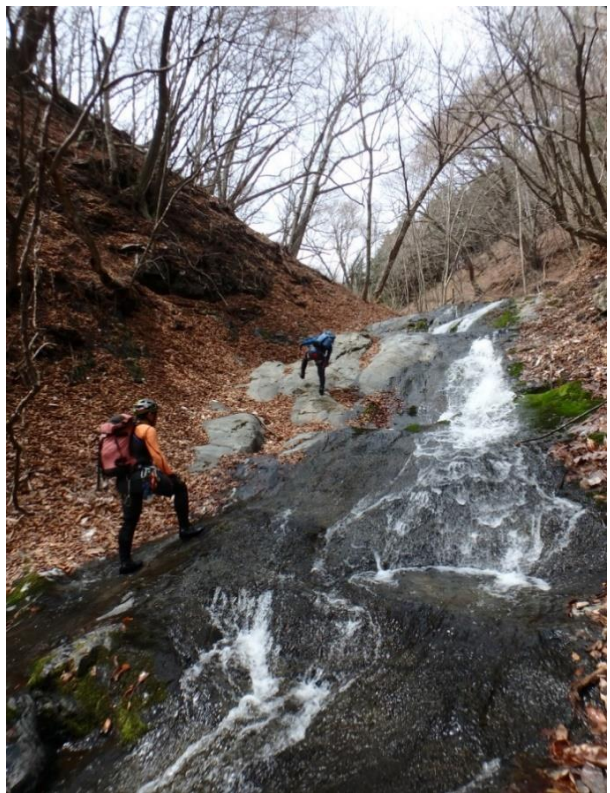
早朝という事もあり、駐車場にはまだ我々しかいない。遅い時間だと観光客にチョッと白い目で見られそうだが、駐車場の下から入溪し行動開始。

アプトの道を沢から見上げるのは何とも新鮮である、下部は生活の匂いがするせいかゴミが多いのと水がドブ臭いのが少々残念であるが、癒し系の溪相は思っていた通りで新緑のウォーター・ハイキングが気持ちいい。春夏秋、四季を問わず沢登りをするようになって、新緑のこの時期は日も長く空気も爽やか、天気も安定しておりベスト・シーズンのひとつと断言出来る。

下部は岩がヌメっている部分が多く、ラバーソールの平川君は終始滑る滑る！と喘ぎ声を上げながら登っていたが、落合・飯野は想定通りでフェルトを履いて来て安定した登りでいつもの“構図”に変わりはない。まわりから見たらドブネズミにしか見えない俺たちにもそれなりの美学がある。。

碓井川は魚影もあり下部は釣り師の気配も色濃い。ただ源頭部までは少し距離が長いせいか釣りに夢中になっていると源頭までツメて戻って来るとチョッと世話しない、今回はシーズン初めだしのんびりとトレーニングがてらの足慣らしだ。

道中ポツチャリ系のカモシカを何度か目撃する、エサが豊富なのだろうか。こんな所でも昨秋は隣の墓場尻川で熊に威嚇されたり、支流もたくさんあって意外と奥深い山域である。山は決して標高や見た目だけでは差し計れないが、比較的軽視していたこの上信国境の山域も沢登りで何度も訪れてみて実は意外といいエリアだと感じている。



碓井第三橋梁こと、メガネ橋を沢から仰ぐ（左上）、癒し溪の溪相がどこまでも続く（右上・下）



源頭はいつになっても高度があがらずツメの雰囲気全くない。。こんな終わり方でいいのかよ！と思ったが、最後は峠の手前に人工で作られたワサビ田があり強制的に尾根に追いやられてしまうが、源頭にはキレイな湧き水が沸く水源碑が立っている。

源頭に出ると茶屋が並び車道を少しだけ歩くと熊野皇大神社、鳥居を挟んで左側が長野県・右が群馬県、お賽銭もそれぞれに分かれておりユニークな神社がこの沢旅の終了点となった。

少し歩けば軽井沢でショッピングも射程圏内、峠越えの歴史も'違った角度'から遡ると満足行く内容になり沢登りしながら観光出来る異色のルートである。

しかしドブネズミの美しさは沢のなかだけで、峠を超えるとちんどん屋状態の我々は神社で冷たい視線（アウェイの洗礼）を浴びたのは言うまでもない。。



熊野皇大神社の鳥居下で長野・群馬の県境に立つ

下りは旧中山道を下りメガネ橋に戻るが、墓場尻川左俣の下降尾根と同地点 909 ピークから北に廃道になった道を下る。

廃道になった道に沿って、コレがしっかりした岩だったら一大エリアになっていても不思議ではない岩壁が旧中山道の下をグルッと覆っている。残念ながらこの辺一帯に安定した岩は無いと思うが、こういう所にヒっそリと大岩が佇んでいるのもいかにも西上州らしい。

帰りは裏妙義、碓井峠周辺のバリエーション・ルートの『関所』である、関所食堂で山の帰りにはちょうどいい濃いめの味付け炒飯ラーメンを頂く。五料のセーブオンでアイス・コーヒー～登利平富岡店で酒のつまみをテイクアウト、これ以上のルーティーンは西上州では後にも先にも見つからないだろう。